

オレンジカフェ しのおかむら



(事例紹介)

しのおかむら代表 : 佐藤章子
コーディネーター : 小林静生
篠岡地域包括支援センター小牧苑
認知症地域支援推進員 : 丹下和彦

小牧市の概要



県の北部

人口 約 15 万人

高齢化率 25.5% R6.1.1現在

内陸工業都市&ベッドタウン

東部は緑豊かな地域

篠岡圏域の特徴①



小牧市の東部全域

桃花台ニュータウン

- 1970～90年代にかけて整備。移住者が多い。
- 集合住宅と戸建てが混在する地域



桃花台ニュータウン

ニュータウン周辺の地域

- 元々の住民が多く、戸建て中心。高齢化が著しい。



ニュータウン周辺

篠岡圏域の特徴②

圏域の人口は約3万1千人
20年間で約7千人減少

10代～30代が減少し、
65歳以上は増加

圏域の高齢化率は33.5%



出典：小牧市第8次高齢者福祉計画

オレンジカフェについて



- ・ 認知症カフェ...認知症の方やその家族、地域住民、福祉関係者などが気軽に集える場所。

篠岡圏域（4ヶ所）

・ しのおかむら、おおくさ、陶、小牧苑

認知症の人	家族介護者	地域住民	専門職
<ul style="list-style-type: none">・ 交流の場・ 心理的な安定	<ul style="list-style-type: none">・ 情報交換・ 介護負担の軽減	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症理解・ 偏見の解消	<ul style="list-style-type: none">・ 学びの場・ 多職種連携

しのおかむらの概要

しのおかむら

- ・ 会 場：東部市民センター
- ・ 日 時：第2・4水曜日13時～15時
- ・ 参加費：100円
- ・ 参加者：20～25名程度
- ・ スタッフ：50～70代の男女21名

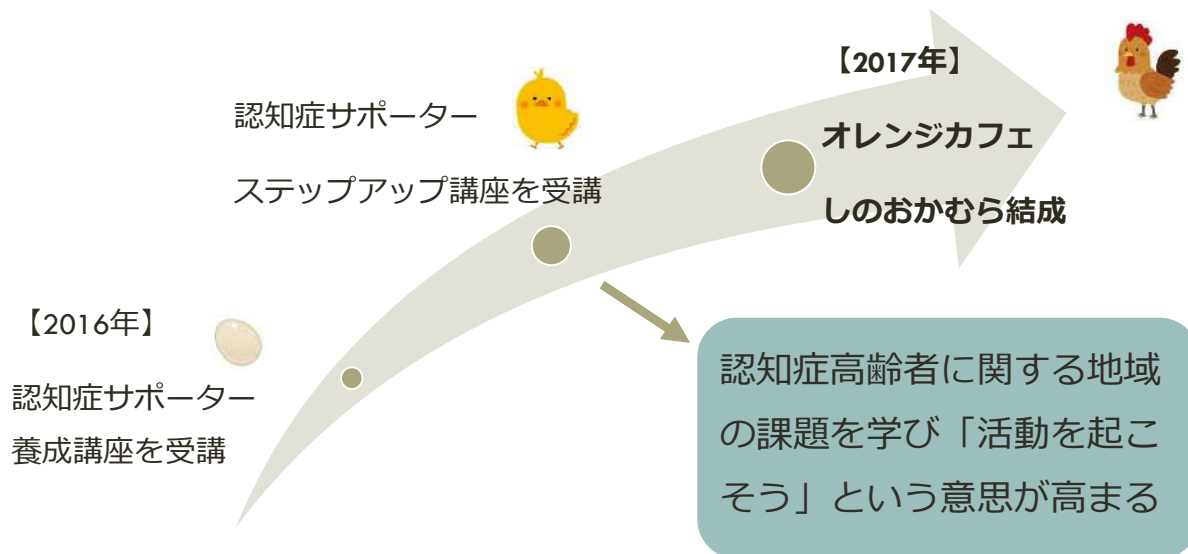


カフェ会場の様子

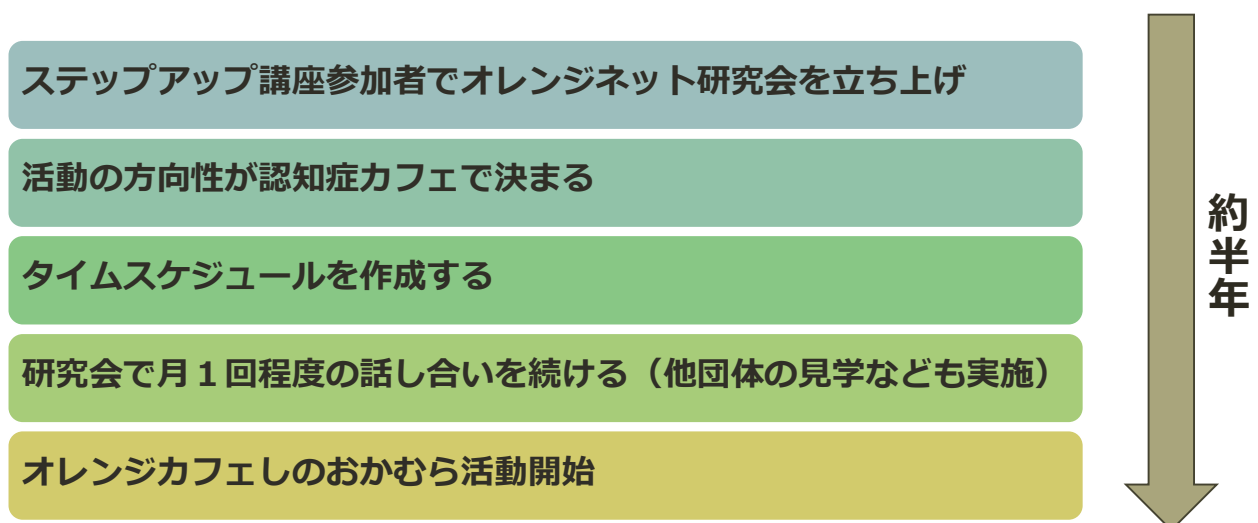


コーヒーとお菓子

しのおかむら結成の経緯



立ち上げの流れについて



事前の協議内容

名称	活動内容	対象者	活動者	運営費
時間	場所	その他	多岐にわたる内容について協議 実施主体は地域住民で地域包括が 活動のサポートに回るイメージ	



しのおかむらの変化

運営の課題

- ・ ①設備が不十分（階段・トイレ）
- ・ ②送迎の負担が大きい
- ・ ③施設利用料がかかる
- ・ その他：新型コロナの対策

休止期間に自宅訪問実施



課題となった階段

解決策

- ①バリアフリーの会場に変更
- ②NPO法人※1に移動支援の依頼
- ③住民主体通所型サービスへの移行



NPOによる移動支援

※1 NPO法人ラポール...
移動支援や地域カフェに取り組む団体

小牧市介護予防・生活支援住民主体サービスへの移行

多様な担い手によって実際される、介護予防を目的とした活動のサービスの充実を図るために、補助金が交付される制度

住民主体通所型サービス

- ・ 月2回以上の開催
- ・ 一回あたり2時間以上
- ・ 1回あたり5人以上
- ・ 半数以上が事業対象者や要支援認定を受けている

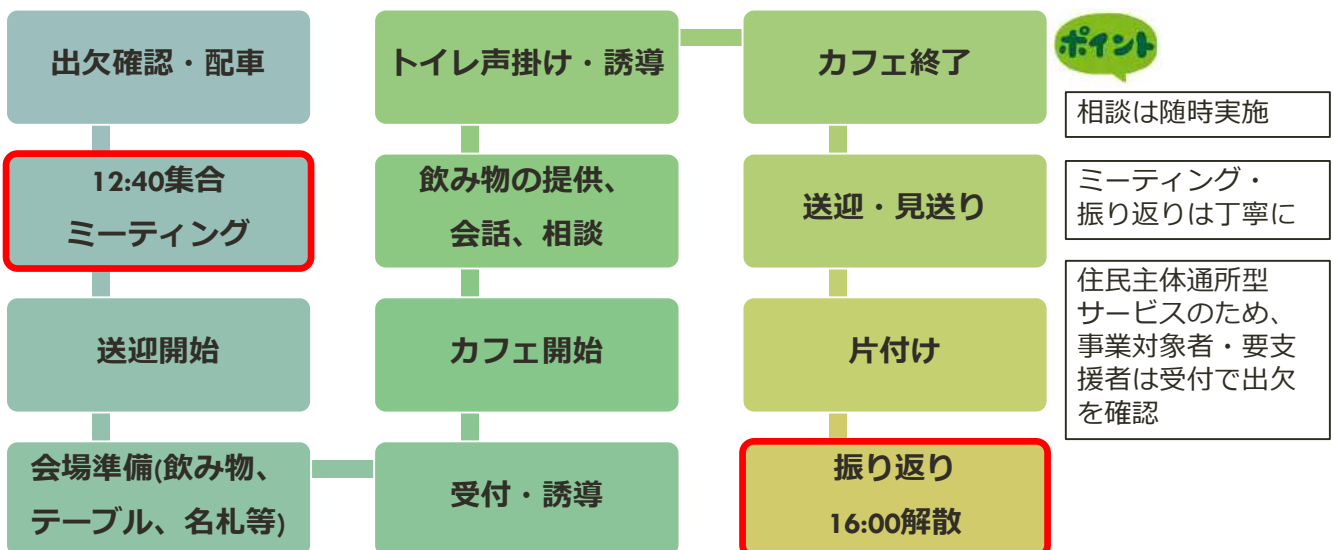
移動支援訪問型サービス（Ⅱ）

- ・ 通いの場への自動車による送迎支援

ポイント

移動方法やサービスへの抵抗感などの様々な事情でサービスにつながってこなかった方を柔軟な体制で支えることができるようになった

一日の流れ(スタッフ) コーヒー、誘導、受付の3班に分かれる



しのおかむらにおける サポーターの役割（例）

①誰もが楽しく気軽に
参加できる環境をつ
くっていくこと

②スタッフとして参加
している認知症高齢者
の補助をすること

③体操や回想レクなど、
活動の補助をすること

④利用者同士の会話、
つながりをサポートす
ること

⑤利用者や家族の相談
を専門職につなげるこ
と

⑥スタッフの気づきを
他のスタッフや包括と
共有する

運動レク・回想法・その他



カフェの活動の様子

ポイント

季節などを感じられる話題
の提供

回想法を意識した歌や話題
の提供

頭の体操などを取り入れた
レクリエーションの提供

個別の状況に配慮した排泄
誘導や移動介助などの実施
(対応可能な範囲で実施)

事例



スタッフ用の名札

認知症がある80代の女性。要介護1。若い頃は食堂で働いており、作業の段取りが良く、人と話すのが好き。家族はデイサービスに行ってほしいが本人「デイサービスはまだ私の行く場所じゃない」と拒否的。

⇒しのおかむらのスタッフとして参加していただくことなる。



スタッフとしての参加の様子

特技や人柄を
生かしたい

社会との繋が
りを保ちたい

認知症の進行
予防をしたい

しのおかむらの特徴

- ①認知症の方が**スタッフとして参加**している
- ②NPO法人による**送迎機能**がある
- ③**専門職との連携**に努めている
- ④利用者、スタッフの**特技を生かせる**（絵、ハーモニカ、ギター、認知症に関するレク等それぞれが得意としていること）
- ⑤ミーティングや振り返り等を強化し、**情報共有**や**改善**に努めている
- ⑥家族介護者交流会など、**家族を支える取り組み**を実施している
- ⑦もてなす側、もてなされる側の**区別をつけない**



スタッフ作：季節の絵



家族介護者交流会

参加者の声

しのおかむらだから行きたい



デイサービスには行きたくないけどここには来たい。

まだもてなされる側ではない。スタッフとしてなら参加したい。

初めて参加したがスタッフの方が長年の友人のように感じた。

帰りの時間になると「もう終わりなの？」と思う。

しのおかむらの課題

①参加者の認知症状が進行したときの受け入れをどうするか

②参加者の高齢化が進んでいる

③スタッフの高齢化が進んでいる（若い人も入ってきてはいる）

④家族支援の機能をどう強化していくのか

⑤周知率を上げていくにはどうしたらよいのか



受付の様子



名札のお渡し

最後にひとこと



ご清聴ありがとうございました

